

行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

びぶろすーBiblos

93号（令和4年4月）



特集：資料を運ぶ（後編）

表紙画像：

取寄せ資料の折りコン（写真提供：国立国会図書館利用者サービス部サービス運営課）

93号（令和4年4月） 目次

『びぶろす』93号刊行にあたって 2

+++++【資料を運ぶ（後編）】+++++

東西間資料取寄せサービスについて
国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 石川 侑希 3

+++++【図書館総合展】+++++

【図書館総合展】
第23回図書館総合展「専門図書館のデジタルサービスの取り組み—DXの流れのなかで」
に参加して
支部気象庁図書館 宮路 浩一
松本 隆則 8

『びぶろす』93号刊行にあたって

『びぶろす』93号は、特集「資料を運ぶ（後編）」の「東西間資料取寄せサービスについて」を掲載しています。東京都にある東京本館内で関西館の資料を利用したい場合、又は関西館内で東京本館や国際子ども図書館の資料を利用したい場合に資料を取り寄せることができます。その資料の運び方に関する記事です。また、図書館界最大級のコンベンションであり、様々なフォーラムやブースが出展される図書館総合展に参加した支部図書館職員の記録をお寄せいただきました。

(編集担当)

【資料を運ぶ（後編）】

東西間資料取寄せサービスについて

国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課

石川 侑希

1. 概要

国立国会図書館には、東京本館（東京都千代田区永田町）、関西館（京都府相楽郡精華町精華台）、国際子ども図書館（東京都台東区上野公園）の三施設があります。関西館の資料を東京本館内で利用したい場合や、東京本館及び国際子ども図書館の資料を関西館内で利用したい場合には、一部対象外の資料を除いて所蔵館から資料を取り寄せることができます。このサービスのことを「東西間資料取寄せサービス¹」といい、一般の登録利用者のほか、国会議員、国会職員、各府省庁等職員及び国立国会図書館職員が利用できます。令和2年度、東京本館及び国際子ども図書館から関西館への取寄せは5,490件、関西館から東京本館への取寄せは2,640件ありました²。

東西間取寄せサービスは、東京本館では利用者サービス部サービス運営課が、関西館では関西館文献提供課が担当しています。一般の登録利用者の取寄せの場合、各館内のカウンター又は国立国会図書館オンラインから申込みができます。



左：一般登録利用者用の取寄せ請求票

右：利用希望日ごとに分けられたフォルダ

申込みがくると、資料の情報に誤りがないこと、請求票を利用希望日ごとのフォルダに入れることなど、職員が都度ダブルチェックを行い、利用者に資料が確実に提供できるように手配します。

また、東西間を往来する資料は、発送や到着、返送のタイミングごとにシステム上で配送状況の更新を行い、現在どの段階にあるのかを確認できるようにしています。

2. 資料を運ぶ

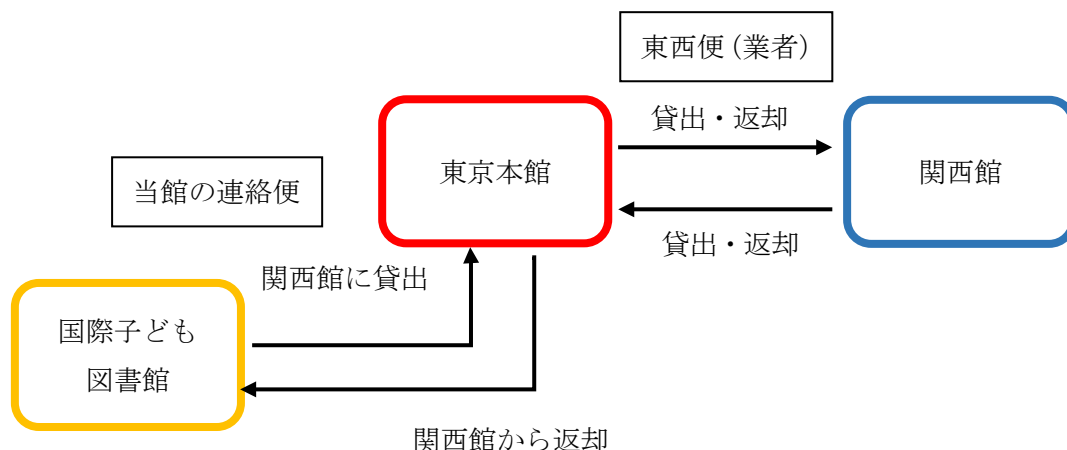
取寄せ資料は運送業者によって配送されています。これを「東西便」といい、およそ 500km

¹ 郵送貸出サービスとは異なります。

² 一般の登録利用者の取寄せ件数。国立国会図書館『令和2年度 国立国会図書館年報』、https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11941501_po_nen_r2.pdf?contentNo=1&#page=122, p.104
(最終閲覧日：令和4年2月18日)

離れている東京本館と関西館の間を、日曜のほか休日及び年末年始の閉庁日を除いて、通常週 6 日往来しています。一方の施設からもう一方の施設へ、夕方集荷して翌朝到着するスケジュールです。

国際子ども図書館の資料を関西館に取り寄せる場合は、東西便で配送するため、東京本館を経由します。東京本館と国際子ども図書館との間の配送は、当館の官車による連絡便を使います。なお、近隣のため、東京本館と国際子ども図書館の間で資料を取り寄せるサービスは行っておりません。



① 1日のスケジュール

ここでは、東京本館での東西便をめぐる1日のスケジュールをご紹介します。

9:00 関西館に返却する資料の梱包

東京本館での利用が終了した関西館資料を梱包します。資料のバーコードを読み込み、システム上で1冊ずつ「搬送（復路）」というステータスに変更します。

右の写真の折りたたみ式コンテナ（以下「折りコン」という。）に入れ、緑の「返却」ラベルを貼ります。



9:30~10:30 頃 関西館からの東西便到着

関西館から東京本館への東西便が到着します。折りコンを開けて、貸出資料と返却資料を別々の場所に仮置きします。

返却資料は東京本館と国際子ども図書館の各資料を保管する課に返却し、貸出資料は利用者に提供するための仕分け作業を行います。

10:30~11:00 頃 国際子ども図書館から関西館への貸出資料の到着

当館の連絡便で国際子ども図書館の資料が東京本館に届きます。緩衝材入りの封筒に入っています。

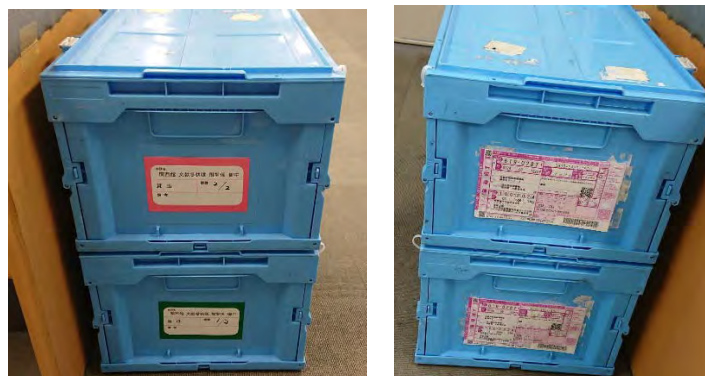
このあと、東京本館からの貸出資料と一緒に折りコンに梱包して関西館に送ります。



14:00 関西館に貸し出す資料の梱包

東京本館から関西館に貸し出す資料を梱包します。取寄せの申込みが入っている資料をシステムで検索し、資料を保管する課に受け取りに行きます（サービス運営課事務室まで届けてもらうこともあります）。資料のバーコードを読み取り、「搬送（往路）」というステータスに変更します。

折りコンに入れ、ピンクの「貸出」ラベルと運送業者用の伝票を貼ります。



発送の準備ができた折りコン

左：「貸出」（上）と「返却」（下）のラベルが貼られている側面

右：伝票が貼られている側面

16:00 頃 関西館への東西便発送

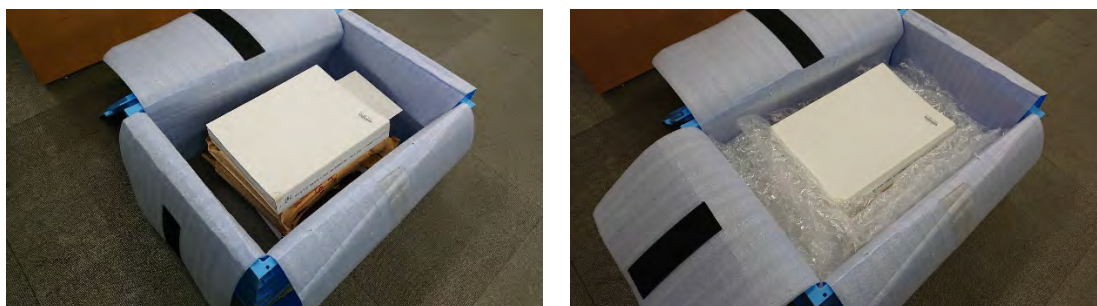
運送業者が集荷にきます。折りコンを引き渡し、関西館に届けてもらいます。

これらの作業の合間にもその日閲覧が終了した関西館資料が順次事務室に戻ってきて翌朝梱包する、というサイクルです。

このように、東京本館から関西館、又は関西館から東京本館への東西便について、それぞれの貸出資料と返却資料を1日に全て扱うため、混同しないように時間や置き場所を決めて作業を行っています。

② 梱包のコツと資材

折りコンの中にマジックテープ付きのシートとウレタンのマットを敷き、その上に資料を重ね、まわりを緩衝材で埋めます。大小の緩衝材を組み合わせて隙間ができないようにします。



さらにウレタンのマットをのせ、シートを閉じると資料が固定されます。最後に結束バンドで蓋を固定すれば完成です。



東西便では青色の折りコン（約53×36×28cm）を主に使用しますが、新聞などの大きな資料を運ぶ場合は、灰色の大型コンテナ（約67×51×23cm）も使用します。

1日に送る平均的な箱数は約5箱ですが、展示会やデジタル化作業などで資料の取寄せが増える時には、10箱を超える折りコンを送ることもあります。



3. おわりに

東西便の作業は基本的にはルーティンワークですが、取寄せ日を間違えないよう、資料を破損しないよう、などと気を付けることがたくさんあります。システム上での管理も重要で

すが、職員の手作業でもミスがないよう心掛けています。

また、東京本館と関西館の間で連絡を取り合うことも欠かせません。たとえば道路状況や天候の影響で配送に遅れが出る可能性がある（あるいは遅れてしまった）場合や、取り寄せた資料の取扱いについて東西間で相談することなどもあります。

東西間取寄せサービス³は、東京本館と関西館の相互連絡と運送業者による安全な配送の上に成り立っています。今後も利用者みなさんのご要望に応えられるよう、確実にサービスを提供してまいります。

(いしかわ ゆき)

(本稿は、筆者が利用者サービス部サービス運営課在籍中に執筆したものである。)

³ 当館ホームページの案内は次のとおり。

<https://www.ndl.go.jp/tokyo/order/index.html> (最終閲覧日：令和4年2月18日)

<https://www.ndl.go.jp/kansai/order/index.html> (最終閲覧日：令和4年2月18日)

【図書館総合展】

第 23 回図書館総合展「専門図書館のデジタルサービスの取り組み—DX の流れのなかで」に参加して

支部気象庁図書館 宮路 浩一
松本 隆則

1. はじめに

2021年11月1日（月）から30日（火）にかけて第23回図書館総合展がオンライン及びサテライト会場のハイブリッド形式で開催され、私たちは11月4日（木）に行われたオンラインフォーラム「専門図書館のデジタルサービスの取り組み—DX の流れのなかで¹」に参加しました。このフォーラムでは、専門図書館2館のDX（Digital Transformation）に関連した興味深い取り組みが報告されていたので紹介します。

2. 講演概要

本フォーラムは、二階宏之氏（日本貿易振興機構アジア経済研究所（以下、「アジア経済研究所」という。))の司会進行により開催されました。初めに二階氏から、図書館の蔵書に関するデジタル化については、①Digitization: 単純なデジタル化、②Digitalization: デジタル化に新たな価値を見出す、③Digital Transformation: デジタル化による社会変革、の3段階があるとの説明がありました。

(1)BIC(Business Information Commons)ライブラリ

結城智里氏（BIC ライブラリ）からは、一般財団法人機械振興協会経済研究所の図書館、BIC ライブラリでは、機械工業を中心とした資料を所蔵し、技術的な資料よりは白書、統計情報等のビジネス情報に関する資料を所蔵しているとの説明がありました。デジタルサービスの取り組みとしては、書籍の表紙を写真撮影し、OCR（光学文字認識: Optical Character Recognition）を利用して書誌情報のデジタル化を行ったことと、アーカイブ資料のデジタル公開のための作業を行い、2021年10月にOPACと連動してデジタル資料を提供できるシステムを導入し、BI コモンズ電子ライブラリ²で公開したことの報告がありました。

(2)アジア経済研究所図書館

坂井華奈子氏（アジア経済研究所）からは、日本における開発途上国の社会科学系の研究機関であるアジア経済研究所が運用するアジア経済研究所図書館では、広くアジア、アフリカ、中東、南アメリカ等に関する各種専門資料を所蔵していること、コロナ禍の対応として、事前予約による来館管理や、郵送サービス（貸出・返却）、ファックスサービス、デジタルサービス

¹ <https://www.libraryfair.jp/forum/2021/101>（最終閲覧日：令和4年2月17日）

² <https://www.d-library.jp/biclg0101/top/>（最終閲覧日：令和4年2月17日）

等の各種サービス³を行ったこと、図書館によるイベント展示をウェブ上へ移行したこと、感染症関連の記事掲載をウェブ上で行ったことについて報告がありました。また、アジア経済研究所が持つ機関リポジトリ ARRIDE⁴ (Academic Research Repository at the Institute of Developing Economies) は、図書資料のデジタル化と親和性が高く、オープンアクセス、オープンサイエンスを指向しており、研究成果のウェブ公開、外部機関とのシステム・データ連携を目指しているとの報告がありました。

高橋学氏 (アジア経済研究所) からは、坂井氏と同じアジア経済研究所の取り組みとして、研究成果のオープンアクセス化 (2016年)、国立研究開発法人の研究開発成果の最大化 (2016年、2017年) により、公的資金による研究成果の利活用を拡大することに重点を置き、研究成果の伝達手段を紙媒体から電子媒体へ移行させ、J-Stage 等インターネット上で無料公開を行っているとの報告がありました。

3. おわりに

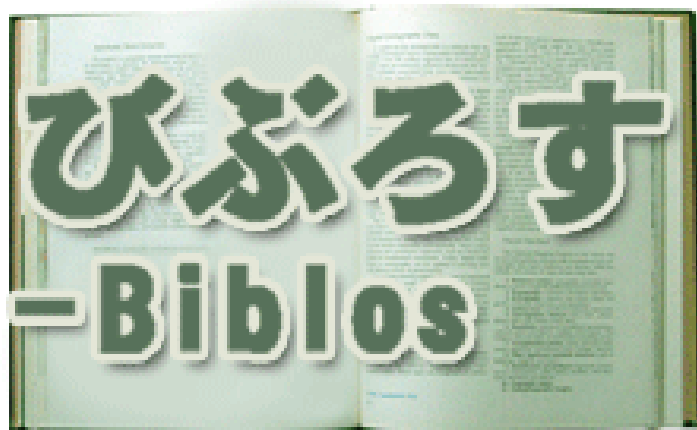
気象庁図書館では、気象庁の前身である中央气象台、内務省地理院などで作成した天気図や調査報告等の破損防止のためにデジタル化を行っています。業務上、テキストデータとして認識可能な形態で利用できるようにすることも重要であると考えており、刊行物のデジタル化に係る最新技術及び最新情報を取り入れつつ、気象庁刊行物のデジタル化作業を進めています。

今回のフォーラムに参加できたことは、当館とは異なる他館の独自の取り組みを知る良い機会となりました。今回得られた知見も参考に、当館は保有する資料の更なるデジタル化を行い、利用拡大を進めていきたいと考えています。

(みやじ こういち、まつもと たかのり)

³ (編集者注) 山下恵理、「資料を運び、組織をつなぐ —アジア経済研究所における貸出サービスの取組」、『びぶろす』、92号、2021年12月
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11941519_po_92.pdf?contentNo=1&#page=22 (最終閲覧日: 令和4年2月17日)

⁴ <https://ir.ide.go.jp/> (最終閲覧日: 令和4年2月17日)



93号

令和4年4月

発行 / 国立国会図書館総務部

ISSN : 1344-8412

web版ではリンクをご活用いただけます

<https://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan